

⑤ 「夢」 広がる「大阪港」 ～C12延伸部供用開始～

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局
大阪港湾・空港整備事務所

キーワード 西日本最大のコンテナターミナル、工法の工夫、工期短縮

全建賞審査委員会の評価ポイント

国際戦略港湾である大阪港夢洲地区における、西日本最長となるコンテナターミナルの延伸改良事業。

ジャケット式栈橋構造を採用し、工場製作と並行して現地での基礎工事等を実施することで作業期間短縮を図り、通常5年は必要とする工事を3年3ヵ月の期間で工事を完了させた点や、関係者との調整を重ね、コンテナターミナルの運営を妨げなかった点、さらにイカナゴ漁の期間中であったもののトラブル、クレームゼロで作業を完了した点が評価された。

1. はじめに

大阪港北港南地区国際海上コンテナターミナル（夢洲コンテナターミナル）は、「国際コンテナ戦略港湾」大阪港の中核施設である。当該ターミナルでは、水深15mから水深16mの岸壁計3バース連続運用を行っていたが、さらなる船舶の大型化や取扱貨物量の増大に対応するため、拡張工事を行っている。平成29年1月にC12延伸部として岸壁（延長250m、水深16m）が完成し、同年2月より供用を開始した。これにより西日本最長の1,350m連続バースが完成し、同時接岸などの運用が強化され、荷役作業が迅速・効率化される効果が期待されている。

2. 事業の概要

当該岸壁は、岸壁の早期供用を望むユーザーからの声に応えるため、ジャケット式栈橋構造を採用し、着工から3年3ヵ月で係留施設工事の完了、供用を開始させた。なお、護岸背後の埋立については、供用後に引き続き護岸背後の荷さばき地の整備をすることとし、現在施工中である。一方、当該岸壁は、供用中ターミナルとの近接施工となるため、40,000t以上の入域船がある場合、一



夢洲コンテナターミナル

旦作業を中止しなければならない。

しかし、ジャケットの据付途中では中断ができないため、大阪港情報センターと連携を図り、作業船の状況を関係者に周知するとともに、コンテナ船の入出域時間の把握を行った。

また、ジャケット据付等の工事を行う予定であった春先は、大阪湾ではイカナゴ漁が行われる時期と重なることから、漁業関係者と綿密な調整を1年以上かけて行い、イカナゴ漁の期間中は、『曳航は漁が終わる13時以降に施工を行う』などとするすることで、理解・了解を得た。

3. 事業の成果

本工事の作業場所の調整・作業船の配置場所を日々検討し、施工場所の変更や作業船の移動などの調整を図ることで、コンテナターミナルの運営を妨げることなく、事故等を防ぎ施工した。

さらに、ジャケット据付場所までの吊曳航、据付、鋼管杭打設までの一連作業を深夜までとし、施工サイクルを13時～25時とした。また、曳航時において大阪湾情報センターと連携を図り、イカナゴ漁の操業情報を収集し、トラブル等もなく施工を完了させた。



ジャケット据付状況

4. おわりに

運用開始から1年6ヵ月が過ぎ、2017年の大阪港の外貿コンテナ取扱量が3年ぶりに200万TEUを超えた。当該施設をはじめとする大阪港の各施設が、我が国経済の国際競争力の強化に大きく寄与していくことを期待している。

今後、完全供用に向け、鋭意整備を進めていく。

賛助会員 東亜建設工業(株)、東洋建設(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)